

1 概要

JR 西日本では、今後の人口減少とそれに伴う通勤通学の需要減少や人手不足を背景に、駅のシンプル化を進めている。このことに伴い、浦安駅・赤碕駅の今後の活用について、JR 西日本より提案を受けている。

2 提案内容(いずれかを選択)

- (1) 既存駅舎を撤去し、JR 西日本が新たな駅舎を設置(需要に応じた規模)
- (2) 現在の駅舎を町へ譲渡、維持管理は町が行う。
- (3) 駅舎を再整備し、町有施設として活用(JR 西日本は一部費用を負担)

3 今後の方針

- ・現時点で JR 西日本からは、具体的なスケジュール等は示されていないが、中期経営計画に明記された内容となっている。
- ・駅舎の活用方針について、今後検討を進める。

4 参考(9/3 日本海新聞記事)

駅舎が古く、利用者が少ない無人駅を対象にJR米子支社が進めている駅の簡素化計画の二環で、JR山陰線の宝木駅(鳥取市気高町宝木)が来年度にも建て替えられる見通しであることが2日、分かった。同社は維持管理コストの削減を目的に管内の全121駅の中から基準に該当する駅を年間約5駅ずつ工事し、約15年かけて計画を進める方針。(西山恭平)

駅簡素化の方針はJR西の中期経営計画に明記され、コスト削減するため、駅の利用者が2018年に策定している。将来の維持管理コストをピーク時の利用者数に近づけていく方針。(西山恭平)

近隣ではJR山陰線の居組駅(兵庫県新温泉町)が19年に簡素化。築100年超の木造駅舎がコンクリート造りに変わった。

JR米子支社山陰地域振興本部によると、簡素化の対象となるのは、築60年以上の無人駅▽乗降者数が1日平均3千人未満の両方に該当する同社所有の駅。鳥取市では市内13駅のうち、鳥取駅と鳥取大学前駅を除く11駅が対象となる。鳥取県内で最も早く簡素化が予定されている宝木駅は築85年で、19年度の1日平均乗降者数は約1500人。トイレは市が所有・管理しており、撤去されない。

来年度に簡素化が計画されているJR宝木駅=2日、鳥取市気高町宝木

昨年、簡素化が完了したJR居組駅=2日、兵庫県新温泉町居組

駅の簡素化推進へ

来年度にも 宝木駅から着手予定

JR米子